

平成 23 年度の研究の概要

鹿児島市立黒神小学校

1 児童の実態及び本校の課題

CRTの結果から、第2学年以外の学年では「書くこと」の領域が全国比に比べて劣っていたり、他の領域に比べて伸び悩んでいたりとしている。また、「書く力」を支える「言語事項」に関しては、どの学年も十分に定着が図れているとはいえない。これまで国語科の内容は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「言語事項」で構成されていたが、本年度より完全実施となった学習指導要領では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改められている。各領域において、言語活動の充実が図られることも今回の改訂の要点の一つとされている。そのため、学校や児童の実態に応じて様々な言語活動を工夫し、充実を図っていくとかが重要とされ、活動例についても以前よりも具体的に示されている。

基礎・基本定着度調査の結果から、内容・領域別における「説明的文章」と観点別にとける「読む能力」が、70%に下回り鹿児島市の平均よりも下回っていると言える。

また、学校生活の中で見られる姿として、全校朝会や始業式・終業式での「児童代表のあいさつ」では、堂々と発表している。児童代表委員会などでの話し合いでは、学年を問わず自らの考えを活発に述べる姿が見られる。日頃から学校図書館の利用には意欲的な児童が多く、校内読書月間には、全校児童で500冊読むことを目標にして見事に達成するなど、読書活動にも意欲的である。一方で、各教科で自分の考えを書いたり日記を書いたりするときに、既習の漢字を使わずに平仮名で表記していることが多く、構成力や表現力の乏しい文章も多く見られる。既習の漢字を積極的に使いながら、学年に応じた文章構成力をしっかりと身につけさせ、表現力を高められるような手立てを講じる必要がある。

これらのことから、本校で取り組むべき課題として、まず「各領域での言語活動を充実させること」が考えられる。また、授業において説明的文章の読み取りの機会を増やして文章を構成するしくみを理解させたり、家庭学習においても新聞記事の読み取りなどに取り組みせたりして「日常生活に根差した文章構成力や表現力を向上させること」が考えられる。

この課題を克服すべく、本年度は説明的文章を通して文章の構成に関する指導を充実させ、これらを生かし、より高めるための言語活動の工夫について研究を進めたい。

2 研究テーマについて

確かな学力をはぐくむ複式学級における学習指導の在り方

～国語科・説明的文章における「書く力」を育てる学習指導を通して～

ここで、「確かな学力」とは基礎的・基本的な知識及び技能はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲なども含めた総合的な学力ととらえている。

国語科・説明的文章における「書く力」とは、何かについて考えるとき、学習指導要領の「読むこと」の指導事項より「説明的な文章の解釈に関する指導事項」と、「書くこと」の指導事項より特に「構成に関する指導事項」と「記述に関する指導事項」が以下のように示されている。

領域	指導事項	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読むこと	説明的な文章の解読に関する指導事項	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりますこと。
	構成に関する指導事項	自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って構成を考えること。	文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
書くこと	記述に関する指導事項	語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

このようなことから、「自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成を効果的に考えることができる力」、「自分の考えを発信するに当たって事実と感想、意見などを区別しながら、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力」を国語科・説明的文章における「書く力」ととらえ、最終段階としてそれらを確実に身に付けさせるための手立てについて研究を進めることとした。

3 研究の視点と目指す子どもの姿について

【視点1】

国語科における詳細な「学び方」について明らかにする。



研究内容①

- 国語科における詳細な「学び方」の具体化について
 - (1) 基本的な学習のしつけについて
 - (2) 学習過程について
 - (3) 言語活動について

【視点2】

説明的文章における「書く力」を高める学習指導の在り方について明らかにする。



研究内容②

- 一単位時間における学習指導の工夫・改善について
 - (1) 同時導入・同時終末の学習過程について
 - (2) ガイド学習について
 - (3) 板書について
 - (4) 練り上げに対する手立てについて
 - (5) 学習計画について
 - (6) 学習環境の整備・活用について
 - (7) ICT機器の効果的活用について

【視点3】

確かな学力を支える基礎的・基本的な事項の習得の在り方について明らかにする。



研究内容③

- 授業以外の取組について
 - (1) 読書タイム
 - (2) つぶや句
 - (3) 日記指導
 - (4) チャレンジタイム
 - (5) 家庭との連携

【目指す子どもの姿】

書 く 力	<p>【第1学年及び第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 時間的な順序や事柄の順序などを表す言葉に注意して読み、内容の大体がわかる子ども。○ 語と語や文と文との続き方に注意しながら書いたり、自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って構成を考えて書いたりする子ども。 <p>【第3学年及び第4学年】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえながら段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む子ども。○ 書こうとすることの中心を明確にし、段落相互の関係に注意しながら文章を構成文章の考え、敬体と常体の違いに注意しながら書く子ども。 <p>【第5学年及び第6学年】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだける子ども。○ 自分の考えを明確に表現するために、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、文章全体の構成の効果を考え詳しく書いたりする子ども。
-------------	--

4 研究の実際

(1) 研究内容①-(1) 基本的な学習のしつけについて

① ノート指導

ノートの機能として「練習する機能」「備忘のための機能」「整理保存する機能」「思考を深める機能」が挙げられる。その場で書くだけでなくふり返り活用することができるノートとなるように、以下の点に気をつけながら記録させている。

ア 練習するために

板書記録とは別に、整った文字の大きさと練習ができるように、練習の場を設定する。この場の練習以外の用途としては、国語辞典などで調べたことなどを記録させる。

イ 備忘のために

板書されたことの他に、自分の考えや友だちの意見などを記録させる。その際、自分の考えや友だちの意見は ①・② などの印を書きこませる。

学習史となるように、日付を書かせる。国語科は縦書きであるため、漢数字を用いて書かせるが、学習内容が前時からの続きである場合は「9/15(木)」など上部に簡潔に記録させる。

ウ 整理保存するために

感じたこと・思ったこと・考えたことなどは、文章化して記録させる。

じっくりと考えさせたいことは、ノートに書かせる。(書くことによって、思考や感じたことを整理されて文章となる。さらに、思考したことを保存させることにつながり、教師も子どもの考えを掴むことができる。)

エ 思考を深めるために

学習課題や自分の考え・友だちの意見などを、見やすくまとめることで、書きながら思考し、思考しながら書くことになる。自分の考えをより明確にしたり、補充したり、深化させたりすることにつながる。

単元全体の課題が何であったか、本時における学習課題は何であったかがひと目見て分かるように、学習計画のはじめに単元全体の課題を明示するとともに、本時における学習課題は青い線で囲む。

② 声のものさし

学級全体に聞こえる声の大きさや、近くの人と話し合うときの声の大きさなどのほかに、複式学級での授業形態として間接指導中の音読の声の大きさについても考える必要がある。

(2) 研究内容①-(2) 学習過程について

【1単元における学習過程】

過 程	内 容
つかむ	課題をしっかりとつかみ、自分なりに課題解決のための目標を設定し、学習意欲をもつ。
見通す	課題解決に向けての方法や手順を考え、学習計画を立てる。
調べる	学習計画をもとに、正確に読み取る。
深める	(1・2年) 読み取ったことをもとに、事柄の順序に沿って構成を考えて書く。 (3・4年) 読み取ったことをもとに、自分の考えを明確にし、段落相互の関係に注意して書く。 (5・6年) 読み取ったことをもとに、文章全体の構成の効果を考え、自分の考えを明確に表現する。
振り返る いかす	まとめたことを発表し合い、自分の考えがどのように変化したのかをいうことを見直す。 (評価)

【1単位時間における学習過程】

過 程	内 容
つかむ 見通す	学習計画から本時のめあてを確認し、学習の方法・流れの見通しをもつ。
調べる	学習課題について調べる。
深める	調べたことをもとに、話し合う。
振り返る	本時の活動を振り返る。 次時の活動を確認する。

